

恵飛須議員（自民議連）

令和3年12月15日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）県立高等学校での教員の年齢の偏在性について

組織に若い世代がないというのは一般的に活性化が難しいとされており、時代に沿った斬新な提案、学校全体の雰囲気、教員同士の学び合いなどに影響を及ぼすものと危惧している。

県立高等学校において50代の教員が約半数を占めていることなどの教員の偏在性について、どのような課題認識を持っているのか、また、今後の採用方針を含め、どのような対応を考えているのか、併せて教育長に伺う。

（答）

学校の教育活動が活性化するためには、ベテランの教員だけではなく、中堅や若手の教員がバランスよく配置され、一体となって組織的に教育活動を行うことが望ましいと考えております。

本県の県立高等学校におきましては、児童生徒の急増期における教員の大量採用のため、全国と同様に、50代と比べて、30代、40代の割合が小さくなっている状況があり、また、小規模校においては、一人の教員が教科指導に加え、校務分掌や担任といった複数の業務を担う必要があることなどから、経験豊富な教員を配置することが多くなる場合がございます。

こうした状況につきましては、先輩教員から若手教員への指導に関する知識・技能の伝承などの問題に加え、近い将来に発生する大量退職に伴う異なる形態での年齢構成のアンバランスが発生するという課題もあると考えております。

こういった課題を解消するため、教員採用試験において、受験可能年齢の引き上げや、他県の現職教員を対象とした特別選考を行うとともに、令和2年度からは、主に30代後半から40代の社会人をターゲットにした「夢・チャレンジ！！特別選考」を実施しているところでございます。

これらの取組を通じて、幅広い年代から計画的に教員を採用するとともに、人事異動においても、年齢バランスも考慮することで、各学校における年齢構成の平準化に取り組んでまいります。